

○音楽科の課題分析と具体的な授業改善計画（令和2年度授業改革プラン 入新井第一小学校）

*元年度の改善プランの検証

歌唱では、意欲的に歌い、自身の歌声にも意識を向けられている児童が多い。器楽活動では、グループ学習・ペア学習などの友達との関わり合いを通して、友達と共に表現の工夫を行い、音楽活動に取り組むことができた。音楽づくりにおいては、積極的に取り組み、思いを持ち、楽しみながら活動する様子が見られた。鑑賞では、部分的に聴くことにより、音楽的要素に着目して聴くことができる児童も増えてきたが、曲想を感じとっているもののそれを表すための語彙力が少ない点は課題である。

*2年度の改善プラン

観点	学年	児童の実態	明らかになった課題	具体的な授業改善案
表現の技能・知識・理解	一年	<ul style="list-style-type: none"> 鍵盤ハーモニカの演奏には意欲的だが、指遣いや少し難しい曲の演奏に関して、児童によって差がある。 元気が良すぎて大きな声で怒鳴るように歌う児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> きれいな声で歌う指導を工夫する必要がある。 鍵盤ハーモニカの指遣いに戸惑う児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 伴奏に合わせて歌ったり友だちの歌声に合わせて声そらえて歌ったりする楽しさを味わえるようにする。 階名唱と共に鍵盤ハーモニカの指遣いを繰り返し指導する。また鍵盤ハーモニカの吹き方や片付け方を身に付けさせる。
	二年	<ul style="list-style-type: none"> リズム表現に楽しく取り組んでいる。 鍵盤ハーモニカの演奏は、正しい指遣いやタンギングに難しさを感じる児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> リズムに合わせて、手を叩けない児童がいる。 鍵盤ハーモニカでは、指遣いやブレスの位置などを意識しながら演奏する学習を重ねていくことが必要な児童がいる。また、鍵盤ハーモニカの片づけ方も身に付けさせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 難しいリズムは、簡単なものに変えるなど、個人の実態に合わせて取り组ませ、活動する楽しさを味わわせる。 鍵盤ハーモニカについては、個人的に練習をみるなどして、少しずつでもできるように指導していく。
	三年	<ul style="list-style-type: none"> 音楽に合わせて元気な声で歌うことができる児童が多い。 鍵盤ハーモニカは拍の流れの流れて演奏でき、難しい指使いに対応できる児童が多い。 リコーダーは、指の動かし方に慣れて、簡単な曲を演奏できるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地声を強く出してしまう児童が数名見られる。 息が強すぎたり、タンギングがうまくできない児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 選曲を工夫し、やさしい声で歌える曲を表現したり、歌詞の内容を味わって表現できる授業を行う。 タンギングの例を何度も聴かせたり、適切な息の流し方に集中したりする取り組みを行う。
	四年	<ul style="list-style-type: none"> 響きのある声を意識しながら歌える児童が増えてきた。 リコーダーはサミングや低い音の拭き方を覚え、簡単な曲を演奏できるようになった。 強弱記号の意味を覚えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地声で押し出そうとする児童がいる。 リコーダーの技能が周りに追いつかず戸惑っている児童がいる。 楽器演奏では他者との関わりを意識できない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 選曲を工夫し、やさしい声で歌える曲を表現したり、歌詞の内容を味わって表現できる授業を行う。 指遣いの記号を用いたり、テレビに映して演奏の流れを示したりして、誰にでも取り組みやすい指導を行う。
	五年	<ul style="list-style-type: none"> 無理のない発声でしっかり歌うことが出来る児童が多い。 友達に合わせて演奏しようと意欲を持って活動ができています。 器楽に関しては、技能が高い。 和音や曲想について理解して取り組む児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱に関しては、少し迫力が足りない面が見られる。 役割を考えて演奏することができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸や口の開け方などを具体的に伝えて歌うことを指導する。 音楽の仕組みについて指導する。
	六年	<ul style="list-style-type: none"> 無理なく、響きのある歌声で歌える児童が多い。 拍の流れの流れて音色に気をつけて演奏することができる。 音の重なりや役割について意識しながら合わせる事ができる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> リコーダーの技能に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 速度を工夫したり、指遣いについて具体的に指導したりして、全員が取り組むことができる指導を行う。
	一年	<ul style="list-style-type: none"> 音楽に合わせて元気な声で歌ったり演奏したりすることができる児童が多い。 楽曲の模範演奏を静かに、様子をイメージしながら聴くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音程やリズムが定まらない児童がいる。 地声で歌う児童が多い。 感じたことを言葉で伝えることが難しい児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 音遊び等で、楽しみながらリズムや音程を正しく表現できるようにする。 範唱をじっくり聴かせる。 言葉のヒントをたくさん出す。
	二年	<ul style="list-style-type: none"> 曲の様子に合わせて歌ったり演奏したりする児童が多い。 鑑賞曲の感想を的確に述べる事ができる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 伴奏に合わせてられない児童がいる。 語彙が少なく、いつも同じ言葉で感想を述べる児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 伴奏の音を大きく提示したり、手拍子をして表現したりして、全体で拍を共有する。 言葉のヒントをたくさん提示し、語彙を増やす。

音 楽	音楽表現の 創意工夫	三年	<ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーは息の使い方を意識してきれいに表現しようとする児童が多い。 ・音色に気を付けて音楽を聴く児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌の強弱などを意識せず、いつも大きな声で歌ってしまう児童がいる。 ・息の正しい流れがわからず、大きすぎる音で表現しまう児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい歌い方の見本を示したり、範唱CDをじっくり聴かせたりするなどして、自分の声と向き合う活動を行う。 ・個別指導で正しい息の流れを指導する。
		四年	<ul style="list-style-type: none"> ・強弱や声の出し方に注意して表現する児童が増えてきた。 ・適切な速度にのって曲の雰囲気表現しようとする児童が多くなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーは息の流れを考えず、曲の雰囲気合わない演奏になることがある。 ・曲をじっくりと味わって聴くことが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・息継ぎや音色について、テレビで示すなどして、わかりやすく取り組めるようにする。 ・どこに注意して聴いたらよいか、など鑑賞のポイントを明確に伝えるようにする。
		五年	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想に合う表現を工夫しようとしている。 ・楽曲の良さを理解して、味わって聴くことができる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・強弱の工夫ができない児童がいる。 ・鑑賞において、感じたことを文章で表すことが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に強奏の表現の仕方（息の吸い方や振りかぶりの大きさなど）を指導する。 ・言葉のヒントや例文を与えて、言葉で表現しやすくする。
		六年	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想に合う表現や強弱を工夫し、適切に表現している。 ・楽曲の良さを理解して、味わって聴くことができる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感じたことを文章で表すことについて、できる児童とできない児童の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章で表すことが苦手な児童には、言葉のヒントや例文を与えて、言葉で表現しやすくする。
関心・ 意欲・ 態度	一年	<ul style="list-style-type: none"> ・歌やリズムを遊び、鍵盤ハーモニカの演奏に楽しく取り組んでいる。 ・大きく口を開けて歌うなど表情豊かに表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤ハーモニカは、能力差があるため、一斉指導で進めることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみながら音楽の基礎基本が身に付くよう、リズム遊び等を多く入れていく。 ・鍵盤ハーモニカは実態に合わせて段階的に個別指導を行う。 	
	二 年	<ul style="list-style-type: none"> ・歌やリズム遊びに意欲的に取り組んでいる。 ・鍵盤ハーモニカや簡単な打楽器を使って演奏することにも進んで取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌うことや鍵盤ハーモニカでの演奏に自信がなく、進んで取り組まない児童もいる。 ・鍵盤ハーモニカの演奏（指遣いも含める）に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が楽しんで活動できるように、児童の興味関心や実態にあった教材を選ぶなど工夫する。 ・鍵盤ハーモニカが苦手な児童には、実態に合わせて個別指導を行う。 	
	三 年	<ul style="list-style-type: none"> ・歌うことを楽しんで取り組んでいる。 ・鍵盤ハーモニカやリコーダーの練習にも意欲的に取り組むことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・やる気の強さがけじめをなくしてしまうことがある。 ・どんな楽曲にも強奏で表現してしまう児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動そのものの目的だけでなく、活動前後の取り組みにもめあてをもたせる。 ・強弱を意識させ、その良さを理解した上で音楽に取り組むように指導する。 	
	四 年	<ul style="list-style-type: none"> ・歌うことを楽しんで取り組んでいる。 ・器楽では楽しんで演奏に取り組む児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・やる気の強さがけじめをなくしてしまうことがある。 ・リコーダーに苦手意識のある児童が、練習をすぐにあきらめてしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動そのものの目的だけでなく、活動前後の取り組みにもめあてをもたせる。 ・個別指導を行うと、できるようになる児童が多いので、粘り強く声掛けを行い、適切な評価をしてやる気を持続させる。 	
	五 年	<ul style="list-style-type: none"> ・歌うことを楽しみ、曲想を感じながら意欲的に歌うことができる。 ・リコーダーや他の楽器も意欲的に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱に対して苦手意識があり、積極的に声を出そうとしない児童がいる。 ・持ち物が揃わない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって歌いやすい教材を選んだり、歌のめあてを明確にもたせて、やる気をもって取り組むことができるようにする。 ・担任の先生と連携して持ち物の連絡を行うようにする。 	
	六 年	<ul style="list-style-type: none"> ・響きの歌声で意欲的に歌うことができる。 ・リコーダーや他の楽器も音の出し方や演奏の仕方、音のバランス等を工夫し取り組むことができる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動前後に集中しきれない児童がいる。 ・音楽的な課題やめあてを自分でもつことができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動そのものの目的だけでなく、活動前後の取り組みにもめあてをもたせる。 ・おさらい・復習を行い、どのように表現したり取り組んだりしたら良いか自分で見つける活動を取り入れる。 	